

2011年3月期 連結決算について

2011年3月期（2010年度）連結決算は、前期比「増収増益」の決算

2012年3月期（2011年度）連結業績見通しは、営業利益を確保

1. 航空取扱量について

※単位未満四捨五入

区 分	2009年度	2010年度	増減①		2011年度	増減②	
	実績	実績	数量	%	見通し	数量	%
	A	B	B-A	B/Ax100	C	C-B	C/Bx100
航空機発着回数（万回）	18.7	19.1	0.4	102.3	17.3	△ 1.9	90.3
航空旅客数（万人）	3,285	3,252	△ 33	99.0	2,607	△ 645	80.2
航空貨物量（万トン）	196	207	11	105.4	206	△ 1	99.4
給油量（万kl）	478	468	△ 11	97.8	403	△ 65	86.2

(1)2010年度の実績【増減①】

- ▶ 上期は国際線の新規就航等による増便や、全般的に景気が回復基調にあったことから、航空機発着回数、航空旅客数、航空貨物量、給油量いずれも2009年度上期に比べ増加。
- ▶ 下期は羽田空港の再国際化、尖閣諸島問題、韓国延坪島砲撃事件、円高による訪日旅客減少、航空会社の減便、東日本大震災及び福島原発事故等の要因により、いずれも2009年度下期に比べ減少。
- ▶ 通期では、航空機発着回数及び航空貨物量は増加、航空旅客数及び給油量は減少。

(2)2011年度の見通し【増減②】

- ▶ 航空旅客数は、東日本大震災及び福島原発事故以降の減少傾向が2～3ヶ月程度継続した後、復興需要による日本経済の回復に伴い、2011年度末にかけて概ね震災前のレベルまで回復すると想定。
- ▶ 航空機発着回数は、航空旅客数減に伴い減少。
- ▶ 航空貨物量は、震災等の影響は限定的と見込まれ、通年では前期並みに堅調に推移。
- ▶ 給油量は、航空機発着回数減に伴い減少。

2. 連結決算の概要《連結の範囲》 連結子会社 21社、持分法適用関連会社 1社（前期末同数） 単位:億円（単位未満切捨て）

区 分	2009年度	2010年度	増減		2011年度	増減	
	実績	実績	金額	%	見通し	金額	%
	A	B	B-A	B/Ax100	C	C-B	C/Bx100
営業収益	1,798	1,878	80	104.5	1,616	△ 262	86.0
営業利益	213	320	106	150.1	76	△ 244	23.7
経常利益	125	234	108	186.9	△ 6	△ 240	—
当期純利益	60	99	38	164.4	△ 32	△ 131	—

（注）業績見通しにつきましては、東日本大震災等の影響を含め、当社が現時点で想定した航空取扱量に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。引き続き航空取扱量の動向を注視し、大幅な変動があった場合には、改めて発表する予定です。

（決算概要詳細は裏面）

(1)2010 年度経営成績の概要

**営業収益は 1,878 億円(前期比 80 億円の増)、営業利益は 320 億円(同 106 億円の増)、
経常利益は 234 億円(同 108 億円の増)、当期純利益は 99 億円(同 38 億円の増)の「増収増益」**

- **営業収益：前期比 80 億円の増収**
- **営業利益：前期比 106 億円の増益**
 - 営業収益が増加したことに加え、営業費用が退職給付費用の減少や警備費等運営経費の抑制により減少した結果、営業利益は増加。
 - 空港運営事業：増収増益。航空機の発着回数は前期並みに推移したものの、就航機材の小型化の影響に加え、国際線着陸料を引き下げたことにより空港使用料収入が減少。給油施設使用料収入も同様に就航機材の小型化の影響で減少。一方、旅客施設使用料収入は、旅客関連料金改定の通年化により増加。空港運営事業全体の営業収益は増加。営業利益は3期ぶり黒字転換。
 - リテール事業：増収増益。下期の航空旅客数は減少したものの、上期の航空旅客数増加に伴い、直営店舗の物販・飲食収入が増加したことにより、営業収益、営業利益ともに増加。
 - 施設貸付事業：減収増益。前期に航空会社の事務室等の返還があった一方、当期に貨物上屋等の新規貸付があったことにより、営業収益はほぼ前期並み。営業費用の減少により営業利益は増加。
 - 鉄道事業：2010年7月17日の成田スカイアクセス開業に伴い、線路使用料収入が加わったことにより営業収益が増加。営業損失は改善。
- **経常利益：前期比 108 億円の増益**
- **当期純利益：前期比 38 億円の増益**
 - 東日本大震災関連の復旧費用等を特別損失として計上したものの、当期純利益は前期比 38 億円の増加。

(2)2010 年度財政状態の概要

- 資産合計は、成田スカイアクセスにかかる固定資産の圧縮記帳等により前期末比 1,005 億円減の 9,355 億円。
- 負債合計は、成田スカイアクセスにかかる前受工事負担金の工事負担金等受入額への振り替え、社債の減少等により前期末比 1,087 億円減の 6,998 億円。当期末の有利子長期債務残高は、前期末比 320 億円減の 5,569 億円。平均金利は前期末比 0.02 ポイント低下し 1.49%。
- 純資産合計は、前期末比 81 億円増の 2,356 億円。自己資本比率は、前期末の 21.0%から 24.2%へ増加。

(3)2010 年度キャッシュ・フローの状況

- **フリー・キャッシュ・フローは 464 億円：前期比 484 億円の増加**
 - 営業活動によるキャッシュ・フローは、旅客施設使用料収入や物販・飲食収入等の増加及び経費抑制により、前期比 115 億円増の 706 億円のキャッシュ・イン。
 - 投資活動によるキャッシュ・フローは、B滑走路 2500m化などの投資がピークを過ぎたことなどから前期比 368 億円減の 241 億円のキャッシュ・アウト。
 - フリー・キャッシュ・フローは前期比 484 億円増の 464 億円。

(4)2011 年度の連結業績見通し

**営業収益は 1,616 億円(前期比 262 億円の減)、営業利益は 76 億円(前期比 244 億円の減)、
経常損失は 6 億円(前期は 234 億円の経常利益)、当期純損失は 32 億円(前期は 99 億円の
当期純利益)の「減収減益」**

- 営業収益は、航空取扱量の大幅な減少により減収。
- 営業利益は、営業収益の減少により減益となるも利益を確保。

(注) 業績見通しにつきましては、東日本大震災等の影響を含め、当社が現時点で想定した航空取扱量に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。引き続き航空取扱量の動向を注視し、大幅な変動があった場合には、改めて発表する予定です。